

研究開発課題中間評価結果

事業名（年度）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 （令和4年度～令和8年度）
研究開発課題名	霊長類モデルを用いたワクチン評価に関するサポート機関
代表機関名（所属 役職）	国立大学法人 滋賀医科大学（医学部医学科病理学講座・教授）
研究開発代表者名	伊藤 靖

【総合評価】 良い

【評価コメント】

人工繁殖によるカニクイザルの供給体制を構築中であり、本事業への年50頭の供給体制の目途が立っており、目標達成への努力については評価できる。引き続き、人工繁殖技術の向上や、要員の確保・育成に留意し、継続的・安定的にサルが供給できるように取り組むことが求められる。

カニクイザルの供給や感染実験等の支援については、SCARDA事務局の全体調整の下で、医薬基盤研とも協力し、優先順位を付けて支援を行うことが必要である。

支援技術の高度化研究として、繁殖効率の改善を図ることを目的に、遺伝子組換え技術によるカニクイザルFSH・CGの開発を行っている。基礎疾患や重症化因子を持つヒトにおけるワクチンの有効性を予測するために、感染症重症化モデルの作製にも取り組んでおり、一定の成果をあげているが、一部の研究に遅れが出ている。また、感染症有事の発生シナリオを考慮した上で、Disease Xへのモデルとして活用しうる「感染症重症化モデル」がどのようなものか、拠点の研究者とも意見交換を行い検討することが必要である。サルの安定的な供給を前提に、研究リソースの再配分及び効率的な運用に努めてほしい。

今後のカニクイザルの需要について、SCARDA事務局に協力して事前の調査等を行うとともに、感染症有事等により需要が増加した場合にどのような対応が可能か、またどの程度まで対応ができるのかなど、医薬基盤・健康・栄養研究所とともに検討しておく必要がある。

以上